

歓迎の挨拶

マハチュラロンコーン仏教大学学長、国連ウェーサクの日国際委員会委員長、
プラ・ダマコサジャー教授
アユタヤにあるマハチュラロンコーン仏教大学ホール

祝下、

閣下方、サンガの尊敬すべきメンバーの皆様、そして、仏法の友人の皆様、

国連ウェーサクの日国際委員会の委員長として、また、タイ国政府とタイ最高サンガ評議会によって主たる主催者役に任命されたマハチュラロンコーン仏教大学(MCU)を代表して、皆様を国連ウェーサクの日式典と第8回国際仏教徒会議に心より歓迎致します。

マハチュラロンコーン仏教大学のメインキャンパスに皆様をお迎えできることは大きな喜びです。1999年に国連総会で、ウェーサクの日を国際的に認知し、国連本部と他の国連事務所でその式典をふさわしく執



り行うという決議が採択され、そして今、皆様はブッダへの崇拝を表すためにここにおられます。

ウェーサクの日、すなわち、5月の満月の日は世界中の何百万人もの仏教徒にとって最も神聖な日である、と国連総会によって認知されております。ブッダがお生まれになったのは、2634年前のウェーサクの日でした。ブッダが悟りを開かれたのは26世紀前のやはりウェーサクの日でした。そして、ブッダが入滅されたのは2554年前のウェーサクの日でした。

ですから、今年はブッダの悟りの26世紀を私達が共に祝う特別な年です。加えて、皆様は84回目の誕生日を迎えられるタイ国国王陛下を祝う主催国であるタイ国国民の輪に加わって下さいます。

今年はここに、85ヶ国からおよそ1700人の海外からの派遣団とオブザーバーの方々が私達と共におります。なかでも、最近起こった天災にもかかわらず今日ここに出席して下さいました400人を越す日本の派遣団の皆様には私は特に感謝を申し上げたいと思います。そこで、ここに集まった私達、世界中の仏教徒と一緒に日本の人々を慰める祈りを捧げたいと思います：

Dukkhappatta ca niddukkha

苦しみを受けた人々よ、彼らが苦しみから解き放たれますように

Bhayappatta ca nibhaya

恐怖に襲われた人々よ、彼らが恐怖から解き放たれますように

Sokappatta ca nissoka hontu sabbepi panino

悲しみに襲われた人々よ、彼らが悲しみから解き放たれますように。

このウェーサクの式典は仏教徒にとって一年で最も大きな行事です。それは国連によって認知されたブッダの日の式典であるが故に最も大きな行事なのです。そういうわけで、参加者の数は今日まで増え続

けており記録を更新し続けています。参加者の中には、様々な宗派の大僧正や法王猊下、首相や大臣や外交官といった政治の指導者の方々、そして仏教学者の皆様がおられます。

今年の会議の主たるテーマは“社会的・経済的発展における仏教の徳”です。私達はこのテーマに添った基調演説をこれから聴くのですが、この基調演説を行なうタイの講演者が、タイ国の国王陛下が実際に行なわれていることを例に取り上げて社会的・経済的発展における仏教の徳に関する講演を行う、ということに注目していただきたいと思います。

グループ討論には以下の5つの分野があります：

1. 仏教のリーダーシップと社会的・経済的発展
2. 調和に満ちた社会の建設
3. 環境の保護と回復
4. 社会を覚醒させる智慧
5. 一般向け仏教文献－CBT ワークショップ

中国、韓国、スリランカ、並びに、タイの文化ショーが今晚このホールで行われる予定です。180名の中国の方々による仏教音楽の公演は、中国の国外では初めて行われるものです。どうぞお見逃しなく。

そして、明日の午後は、エメラルド寺院で行われるタイ国国王陛下を祝福する国際読経の会に、皆様どうぞご参加下さい。

最終日、5月14日には、バンコクの国連会議センターに移動し、そこでバンコク宣言が発表されます。その後、引き続いてブッタ・モントンでのキャンドル行進にご参加下さい。

いま一度、皆様を歓迎申し上げます。必要なことがあればお申し出下さい。私達は皆様のお役に立てるよう全力を尽くして参ります。この会議の成功を願って、私共のスタッフは皆様が必要とするどのような援助も提供する用意ができております。皆様のタイ国での滞在が楽しく思い出に残るものとなることを願います。

もう一度、ご参加ありがとうございます。

- ダマコサジャー教授博士
- マハチュラロンコーン仏教大学学長
 - 仏教大学国際協会会長
- 国連ウェーサクの日国際評議会会長

仏暦 2554 年(2011 年)5 月 14 日
国連ウェーサクの日会議閉会式での
アピシット・ウェーチャチーフ首相閣下の演説

聖下の皆さま、
サンガの尊敬する指導者とメンバーの皆さま、
閣下の皆さま、
卓越した参加者の皆さま、
そして、紳士、淑女の皆さま、



2011 年国連ウェーサクの日を記念する国際会議に参加致しますことは、私にとって大きな喜びであり名誉であります。

皆様が良くご存じの通り、ウェーサクの日は、お釈迦様の生涯に起こった重要な出来事に関連しております。それは、お釈迦様の誕生と悟り、そして、入滅を記念する日です。その生涯において、お釈迦様の教えは多くの人々に恩恵を与え、後には世界中に広まって今日まで人類の平和を生み出してきました。それゆえ、国連総会は 1999 年 12 月 13 日に、ウェーサクの日が世界にとって重要な日であることを認知する決議を採択しました。それ以来、毎年、様々な国々が順番にニューヨークの国連本部と世界各地の国連事務所で行われる国際的な式典のコーディネイトを担当しております。タイについて言えば、私どもは 2004 年からウェーサクの日式典と国際仏教徒会議を主催しております。

私は、一人の人間として、お釈迦様の教えは世界に平和をもたらす道具として応用しうる、とりわけ、非暴力、平和で調和に満ちた生き方、慈悲の心、愛と優しさ、そして、お互いの助け合いというお釈迦様の教えの根本にある考え方は現在の私達の社会にとって必要不可欠なものである、と信じております。私達は様々な危機のさなかにあります。その危機とは、今年の会議の議題においても触れられている経済危機、社会危機、そして、環境危機であります。

仏教の根本的な考え方は、お釈迦様が最初の説教で説かれた中道、あるいは八正道と呼ばれる教えの中に正確に表されております。お釈迦様が説かれた教えに従うということは、自ら修行によって中道を発達させることです。それはまず、批判的に見て知って十分に理解する正見と正思惟に始まり、試み、思慮深さ、注意深さ、発展への信念を意味する正精進、正念、および正定と続きます。これらは基本的にあなたが常に自ら集中して鍛錬し築かねばならない智慧の一部であります。もし、誰にせよ、智慧を持ち集中して、自らの肉体を動かし、言葉を話し、仕事に携わるなら、それは正し行いとなり、善となり、自分自身にも社会にもそして人類にとっても益となることでしょう。というのは、正語、正業、正命は道德律をなしているからです。中道の道を発展させることは、みんなが一緒に手を取り合って生きていくことを発

展させることにつながります。それは、個々のグループに分かれるのではなく、ましてや、関係ない他のグループに別れ別れになってしまうということではありません。ですから、仏教は、現在起こっている社会的危機、環境危機を解決する最も適切な考え方を提供できるのです。

タイ国首相として、タイのすべての仏教徒を代表して、私はこの会議に出席されているすべてのサンガの指導者の皆さま方、宗教指導者の皆さま方、サンガの尊敬するメンバーの皆さま、そして仏教研究者の皆さまに、心よりの歓迎の言葉を申し上げます。最後に、会議を成功に導くべく入念な準備と運営を献身的に行ってこられた皆さま、特に、サンガ最高評議会に率いられたサンガの皆さま、マハチュラロンコーン仏教大学、そして参加されている公的部門や民間部門の各機関に、感謝申し上げたいと思います。2011年国連ウェーサクの日祝賀が大きな成功を収めることを願っております。

仏暦 2553 年(2010 年)国連ウェーサクの日
陸軍少将サヌン・カジョンプラサート副首相の挨拶

聖下、
最高尊師とサンガメンバーの皆様、
閣下、
素晴らしい参加者の皆様、
ご来場の皆様、



タイ政府とタイ国民を代表して、仏暦 2554 年(2011 年)の国連ウェーサクの日を祝うこの国際会議に世界の 84 ヶ国からお集まり下さったすべてのサンガの尊師の皆様と参加者の皆様を、こうして歓迎申し上げることは非常に名誉で嬉しいことです。この会議は、タイ国が主催者役を務める第 8 回国際会議ですが、タイ王国政府と最高サンガ評議会の全面支援をし、マハチュラロンコーン仏教大学が会議コーディネーターとなっております。

皆様よくご存じの通り、ウェーサクの日はお釈迦様の生涯の重要な出来事に関する日です。それは、ブッダの誕生と悟りの達成、そして入滅を記す日です。ブッダの生涯において、その教えは多くの人々に利益を与えました。そして、後には世界中に広まり、今日に至るまで人類の平和を生み出してきました。そこで、国連総会は 1999 年 12 月 13 日に、ウェーサクの日が世界にとって重要な日であることを認知する決議を採択しました。それ以来、毎年、様々な国々が順番にニューヨークの国連本部と世界各地の国連事務所で行われる国際的な式典のコーディネイトを担当しております。タイ国に関して言えば、私どもは 2004 年から 2011 年の本日まで、ウェーサクの日式典と国際仏教徒会議を主催して参りました。

私は個人として、ブッダの教えは世界危機からさらに回復するための道具として応用されうると信じております。たとえば、精神的発展に関する考え方、環境に関する教義、そして、平和な共存という教義など、様々な仏教の教義を応用することができ、なかでも、非暴力、平和で調和に満ちた存在、慈悲の心、愛と優しさ、そして、お互いに助け合うという教義は応用可能なものです。少なくとも、もし人々が五戒を守れば、すなわち、生命と財産と家族を尊重し、自分の言葉に責任を持ち、酒や麻薬を避ければ、それだけで世界に平和と調和をもたらすに十分でしょう。

タイ王室政府とタイの仏教徒参加者を代表して、私はこの会議に出席するために遠くからお越し下さいました尊敬するサンガの皆様方、宗教指導者の皆様方、そして卓越した仏教研究者の皆様方に、もう一度心よりの歓迎の言葉を申し上げます。献身的に会議の準備と運営を行ってきたチームの皆様、そして参加されている公的機関や民間企業の温かいサポートに深く感謝申し上げます。仏教の教えを人類の将来の世代に広げることを目的としたこの会議が、大きな成果を収めることを願っております。

科学技術大臣
ウィーラチャイ・ウィーラメーティクン閣下
国連ウェーサクの日会議
閉会式での挨拶

2011年5月14日、バンコク、国連会議ホール

祝下、最も尊敬すべきサンガの指導者とメンバーの皆様、閣下方、ジャヤラトナスリランカ首相閣下、優れた参加者の皆様、ご来場の皆様、

私は、一仏教徒として、このように並はずれた皆様方の前でお話することを実に恐縮に思っております。



国連ウェーサクの日を記念する国際会議の閉会式で、タイ王国政府を代表し、2年連続で皆様に加わることができますことは、私にとって実に光栄なことです。皆様に私の心からの歓迎の意を申し上げます。

この数日の会議は、サンガのメンバーと卓越した学者、政府の代表者達、そして、仏教の信者が6つの大陸から集まり、社会的次元において仏教の教義が果たす役割を高める方法と手段について討議する機会を与えてくれました。

尊師プラ・ダマコサジャー教授と少しお話しする機会を得た際に、今年の会議は前年に劣らず建設的で成功した会議であったと伺い、嬉しく思っております。

さて、皆様、

皆様良くご存じの通り、ウェーサクの日はブッダの生涯における三つの重要な出来事に関連するもので、それは、ブッダの誕生と悟りと入滅を記念するものです。

釈尊の存命中も、彼の教えはすでに広範囲の多数の人々にとって有益なものでした。今日、その同じ教えがさらに一層意味あるものとなっております。というのは、現在、それらの教えは、昔より広く速く伝わり人々の心に内的平和を生み出すからです。

だからこそ、その重要性を考えて、国連総会は1999年にウェーサクの日を認知する決議を採択しました。それ以来、様々な国が交代でこの重要な日をニューヨークの国連本部と世界各地の国連事務所で祝っております。

そして、今一度、タイ国はバンコクでウェーサクの日にあわせた国際会議を主催する榮譽に預かっております。

今年のテーマは“社会的・経済的發展における仏教の徳”ですが、これ以上に適切なテーマはないと言わねばなりません。今日、問題は至る所にあるように思われます。社会危機、経済危機、環境危機など、

そのリストは止まるところがありません。

皆様、

釈尊が何よりもまず最初にお説きになったのは、中庸という原理です：“中道”すなわち“Majjhima Patipada”です。この中道に基づき、私達は 8 つの正しい考え方からなる八正道の道を辿ります。

実際、それらは究極の平和を得たいと求める人々のためだけにあるものではありません。すべての人のために、誰のためにもあるのです。八正道は私達に“何を”すべきであるとか、“何を”信じるべきである、ということをお教えるものではありません。というよりむしろそれは、極端に陥ることがないように“どのようにして”正しく物事を扱うかと言う方法を私達に教えるのです。それは全体論的な取り組み方をするので、生活のすべての面に応用することができます。

この事実のゆえに、中道と八正道は、政治的、経済的、そして、社会的難題に対処するための道具として非常に適しています。この道によって、私達は、自然災害や気候変動、国境を越えた犯罪やテロリズムなどの現代の脅威をもっと効果的に処理することができるだろう、と私は確信しております。私達はまた、この道によって、調和に満ちた社会を築き、それを維持し、また、生態系を保護し回復させることができるでしょう。

“正語”は、今日の私達の社会の状態を考えると特別な注意を払うに値します。私達は、「あなたの言葉があなたの世界を作る」という言葉をしばしば耳にします。ですから、もし私達が私達の世界を幸福と思いやりで一杯にしたいと思うならば、私達はお互いに前向きな話をしかも率直に話し合うべきなのです。社会をより良い場所にすることは、思っているよりも簡単です。人々が“正語”に従い、“正業”に従って振る舞い、怒りにかられると“正念”によって中庸の状態へと連れ戻される、そのような社会を思い描こうではありませんか。

最後に、皆様、タイ王国政府とタイの仏教徒を代表して、私は第 8 回国際会議に参加するために世界中から旅をしてこられた皆様方全員に心よりお礼を申し上げます。また、2011 年のウェーサクの日の式典を素晴らしい成功に導いて下さった最高サンガ評議会とマハチュラロンコーン仏教大学、そして、公共部門、民間部門の関係諸機関の皆様には特に感謝致します。

皆様のこの場へのご出席が、私達全員にとっての祝福です。

(スリランカ首相スピーチ 国連会議場)
2011年(仏暦2554年)5月12日-14日
タイのバンコクで開かれた国連ウェーサクの日式典での
首相閣下の演説

大僧正猊下に率いられる尊きサンガの皆様、最高サンガ評議会の皆様、マハチュラロンコーン仏教大学学長の尊師プラ・ダマコサジャー博士、科学技術大臣閣下、タイ政府の優れた代表の皆様、閣下方、ご来場の皆様、



尊師プラ・ダマコサジャー教授よりご招待をいただき、スリランカの国と国民を代表してバンコクで開催されているこの国連ウェーサクの日式典に出席できたことは大変嬉しいことです。私は、この招待は、姉妹国であるタイ国との間に何世紀にもわたって強い宗教的、文化的絆を維持してきた我が国に贈られた名誉であり特権であると考えております。この大きな催しに出席せよと私と我が国の代表団を招待して下さった主催者の皆様にお礼を申し上げます。

私達は、ウェーサクというこの最も神聖な日に、世界で最も偉大な宗教指導者であるゴータマ・ブッダの誕生と悟りと入滅を祝います。国連総会は1999年の決議によってウェーサクの日を世界の諸国によって祝われるべき国連デーとして認知しました。この点において、私達は、ウェーサクの日への国連デーとしての認知を求める動議の先頭に立ったスリランカの前外務大臣、ラクシュマン・カディルガマルと仏教諸国の国連代表達に敬意を払わねばなりません。この動議は時宜にかなったものであり、国際社会が仏教に与える重要性和評価が増大していることを表しております。



1999年の歴史的な国連決議以来、タイ国の偉大なるサンガとタイ国政府、そして、タイ国民は、2001年から国連ウェーサクの日式典を国際レベルで主催されておられ、この国連ウェーサクの日を自国においても大規模に祝う他の全ての仏教国が積極的にそれに協力し参加して参りました。

スリランカは、紀元前4世紀に、仏教を奉じた偉大な王であるインドのアショーカ大王の息子のマヒンダ師によって仏教が伝えられて以来、仏法を初期の形態のままに保存してきたことに大きな誇りを持っております。タイ国やミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナムといった東南アジアの国々に上座部仏教が広まったのはスリランカからでした。そして、これらの国々から、大乘仏教を奉じる中国、韓国、日本という東アジアの国々へと仏教が広まりました。仏教諸国においては、その長い歴史の間にサンガと在家信者による宗教的実践の急激な高まりと衰退が時々起こってきました。ある仏教国で衰退が起こると、他の仏教国が間に入り、仏教が衰退してきた国の宗教実践を助け蘇生させる助けの手を差し伸べました。18

世紀にスリランカでサンガの得度式が衰退した時、タイ国は、得度式を復活させるために、1753 年にウパリ尊師に率いられた 21 名のサンガメンバーからなる派遣団を送り、スリランカに得度式復興の手を差し伸べて下さいました。同様に、スリランカは、以前にミャンマーとタイ国が逆の立場に直面していた時に何回かサンガメンバーの交流を行って2国を援助いたしました。

タイ国は毎年バンコクで国連ウェーサクの日を主催されておりますが、その手際の良い細部まで行き届いた運営は、スリランカだけではなくすべての仏教国が称賛するところです。

スリランカは過去 30 年の間、テロリズムに苦しんできました。テロの恐怖のために、仏教徒もヒンズー教徒もキリスト教徒もイスラム教徒も、いかなる国内行事も祝う自由がありませんでした。当時、私達の生活は家庭にあっても、会社や学校、あるいは、公共の場においても、テロリストによる脅威の影響下にありました。過去 30 年の間に数多くの母親が、子供達が、学生達がテロリストによって冷酷に殺されました。

2009 年 5 月に、マヒンダ・ラージャパクサ閣下の先導の下、テロリズムはスリランカから完全に一掃されました。今日、私達はあらゆる国内行事を何も恐れることなく自由に祝うことができます。しかしながら、貧しい人々をテロリストの手中から解放するためにスリランカ軍によってとられた人道主義的な作戦は、国際社会から正当に評価されておられません。代わりに、既得権利を持つ幾つかのグループが、スリランカのイメージを汚し 30 年以上も苦しんだ後に私達が確立した平和な環境と民族間の調和を傷つけようと試みております。上座部仏教を奉じるスリランカは釈尊が教えられた通り人権を尊重しております。私達は国際社会に、とりわけ、仏教徒の皆様、スリランカの状況を偏らない見方で評価していただくよう懇願致します。スリランカ政府が非常に大きな努力を払って築きつつある民族間の調和にとって、幾つかの外的勢力が作り出そうとしている環境は助けになりません。国の大小にかかわらず他の国の主権を尊重すること、そして、その国の政府が自国の国民を守り彼らが平和に生活できるようにすることを認めることが世界の責任でありましょう。

今年の国連ウェーサクの日式典において、タイ国の国王陛下の 84 歳の誕生日が祝われることはこの式典にさらなる重要性を付け加えるものです。

タイ国の仏教の守護者であられる国王陛下が国連ウェーサクの日の祝祭とあわせて祝われることはふさわしいことです。陛下は、質素で敬虔な生活を送られ、タイ国のみならず他の仏教国からも同様に尊敬される、他の模範となる指導者であらせられます。

スリランカ国民は陛下の健康と長寿をお祈り致します。

タイ国バンコクでの 2011 年国連ウェーサクの日式典が成功を収めますように